



おとなじゃないし、子供じゃない——
 そんな年頃をレモンエージと呼ぶのです！
 すっぱいよ。甘いよ。ちよっぴり危険だよ。でもレモンたちは幸福いきいき！

＜カラー作品＞フランス映画

トリュフォーの

思春期



ジョーリー・アムソー ● フィリップ・ゴルドマン
 リシャール・コルフィエ ● 製作・監督 フランソワ・トリュフォー
 音楽 モーリス・ジョーベル ● 主題歌 シャルロット・トレネ
 日本版監修

ユナイテッド映画 United Artists

FRANÇOIS TRUFFAUT L' ARGENT DE POCHE

〈カラー作品〉

トリュフォーの思春期

★スタッフ

製作・監督……フランソワ・トリュフォー
脚本……フランソワ・トリュフォー
……………スザンヌ・シフマン
撮影……ピエール・ウィリアム・グレン
編集……ヤン・デデ
音楽……モーリス・ジョーバール
主題歌〈子供に日曜は退屈〉
……………シャルル・トレネ

★キャスト

パトリック……………ジョーリー・デムソー
ジュリアン……………フィリップ・ゴールドマン
リシャール……………リシャール・ゴルフエ
シルビー……………シルビー・グレルセル
マルチヌ……………パスカル・ブリュション
ルカ兄弟……………クロード&フランク・ド・ルカ
ローラン……………ローラン・デブラミンク
イバ……………イバ・トリュフォー

United Artists
A Transamerica Company

ユナイテッド映画

◆かいつ

「男が主人公の男性映画、アクションものなどは私の守備範囲ではない。私が興味あるのは、女と子供である」

前作「アデルの恋の物語」で19世紀を生きだ若き女性のアドベンチャー・ラブストーリーに取り組み、素晴らしい成果を見せたフランソワ・トリュフォー監督が、今度は一転、「野性の少年」以来の得意のメルヘン世界に舞い戻った。

「アデルの恋」を撮り上げた直後、全く異なつた世界に挑戦したい意欲に駆られた。それはスクリーンを大勢の子供たちで埋めつくすというアイデアだ」

主人公は約10人の少年少女。フランスの中央部の小都市を舞台に、乳歯の生える頃からファースト・キスまで各人各様さまざま成長過程が綴られる。作品を構成するエピソードは時にファンタスティックで、時にシリアス。普段垣間見ることの出来ないユームラスでミステリアスな子供世界に、見るものを思わず引きずりこむことに魅力的な作品に仕上がっている。

主演は数百人からのオーディションを見事突破したジョーリー・デムソー、フィリップ・ゴールドマン、リシャール・ゴルフエ、シルビー・グレルセル、パスカル・ブリュションの子供たち。そしてトリュフォー監督の娘イバも出演している。

脚本は「アデルの恋の物語」と同じくトリュフォーとスザンヌ・シフマンの共同。撮影はピエール・ウィリアム・グレン。音楽は故モーリス・ジョーバールの旋律が効果的に使われ、シャンソンの大御所シャルル・トレネの作品〈子供に日曜日は退屈〉が挿入されている。

トリュフォーの言葉を借りれば、「大人は判ってくれない」と「夜霧の恋人たち」との中間のドラマチック・コメディの線を狙ったものだが、彼の子供に対する限らない愛情と暖かいまなざしが感じられ、見終った後の清々しさは例えようもないほどだ。

◆珠玉のようなエピソード

パトリックのクラスに新入生が入ってきた。彼の名はジュリアン・ルクルー。でもどこか暗い影のある少年だ。学校での一番の話題は「刑事コロンボ」。前夜のストーリー展開に話の花が咲く。

パトリックはいま思春期。親友ジャンの美人の母親に相当気がある。一方、クラスの歴史を担当する男先生と同じアパートに住むのが、離乳期を過ぎたばかりのグレゴリー坊や。母親の目を盗んでイタズラの真最中。ペットの猫を追ってアパートの窓から真逆さま。しかし、運よく地面に軟着陸して大人たちをホッとさせる。日曜日、子供たちにとっては退屈な日。両親との外出を拒否した反抗期のシルビーは、拡声器を使って「お腹がすいた、お腹がすいた」。そして映画見物は子供たちにとって最高の楽しみだ。この日、ジュリアンは友達をまんまと不正入場させる。クラスの担任ブチ先生はこんな子供たちに頭が痛い。しかし、彼らの天真らんまんな行動はますますエスカレートするのだ――。

今秋話題のロードショー

ヒビヤ みゆき座 (591)
5357